



精神療養病棟での犬介在療法の効果

医療法人耕仁会札幌太田病院

精神科療養病棟

[発表者]新妻由美

[共同発表者]

工藤真美・多田信雄・太田耕平

1 . 犬介在十段階療法とは

- 『犬介在十段階療法（以降AAT）』（太田考案）は患者と犬双方へ配慮した誰でも参加可能なプログラムである。
- AAT...Animal-assisted therapy



犬介在療法十段階 (AAT)

第一段階 犬を目で追う	第六段階 犬の対応方法.注意点が分かる
第二段階 犬の側による	第七段階 犬を抱っこできる
第三段階 犬の名前を呼ぶ	第八段階 犬のしつけができる
第四段階 犬の頭や背を撫でる	第九段階 犬を室内.室外に散歩させる
第五段階 犬におやつを与える	第十段階 すべて可能







事例発表 A氏 30代 女性

統合失調症

入院時から、自閉的・他患との交流はほとんど認めれていなかった。

AAT導入時の精神状態

- ・「死にたい」と常に自殺企図があり、スタッフの前で自ら首を絞める行為が何度も繰り返されていた。
- ・声をかけると「はい」「いや」と簡単な返答のみ会話が続かない。自発的な発言・行動は少なかった。
- ・表情は無表情・他患との交流はほとんど認められなかった。

犬への接近十段階

第一段階 眺める アイコンタクト	第六段階 犬が指の臭いを嗅ぐ
第二段階 犬の気持ちを推察する	第七段階 犬が指先を舐める
第三段階 犬に安心感を与える	第八段階 鼻をなでてやる
第四段階 少しずつ近づく	第九段階 顎 頭をなぜる
第五段階 あごの下に指先を伸ばす	第十段階 体をなげ、ゆっくり膝に抱き上げる (介護者が支援)

A氏のAAT導入による精神状態の変化

・第1～第4段階...初回導入時期

周囲に対して無関心.無表情 笑顔で声をかけ犬と遊び始める。

・第5～第8段階...自己表現の出現

レポート.言葉に対して自分の想いを言葉で表現する

・第9～10段階...精神状態の安定

周囲との交流が拡大.希死念慮が軽減し退院に対する意欲が出現



4. アンケートの対象者

- ・ AAT実施後半年後にアンケートを実施
- ・ 2階精神科療養病棟患者54名中49名がアンケートへの協力を得た。
- ・ 看護者23名に患者同様のアンケートを実施した。

AATの導入についてどう思うか？

犬が病棟に入りAATを実施することは治療上どう思うか？

良いとの返答は....

患者 : 37名



AATの効果について

- 癒される 患者30名
- 会話が増えた 患者19名
- ストレスが軽減した 患者19名



AATの効果について

- 犬が来ると病棟の雰囲気明るくなった
看護者19名
- 患者同士の会話が増えた
看護者17名
- 犬がいると精神状態が安定している
看護者14名



5.まとめ

- **AATにおける心理的効果として……**

犬は無条件に人を受容し、その人に安心感を与える

感情表現の効果がある

犬と一緒にいる事が保護者の役割となり、責任を担うことが自己認識の改善作用となる

犬の周囲に自然と人が集まることで、会話が促進される。